

ダム神話を斬る

基本高水は ダム建設の隠れ蓑

「人吉地点の 80 年に 1 回の洪水量は毎秒 7000 トン」など、治水を考える上で必ず出てくるのが、治水安全度、基本高水流量という概念でした。しかし、これらの概念は科学的根拠に全く基づかない恣意的な数字であり、このことを考えること自体、国交省のダム建設を容認してしまうことになるのです。

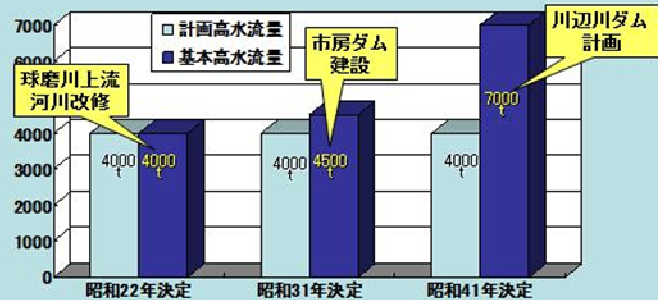
「基本高水」とは？

洪水防御に関する基本となる洪水をいう
(河川法施行令第10条2の2のイ)

基本高水
という洪水 = **川を流れる**
洪水 + **ダムのため**
込む洪水

基本高水並びにその河道及び洪水調節ダムへの配分に関する事項 (河川法施行令第10条2)

基本高水・計画高水の変遷:球磨川(人吉地点)



過去最大の洪水は5400トン(昭和57年)

想定外の降雨・洪水にも対応するために
脱「基本高水」

洪水 = 水害
洪水を敵視
治水
flood control
多目的ダムと連続堤防
公共事業に最適

洪水 = 川
洪水との共生
川の保全
river conservation
自然の営み重視の川づくり

「川は流れてこそ川」「川は溢れてこそ川」の考えに基づき、川と人間の生活が両立していくような従来とは全く違う発想に基づく治水の考え方を学習します。

日時: 2月28日(土) 開場 18時00分、開始 18時30分

会場: 熊本市・県民交流館パレア第3会議室(水道町電停下車、鶴屋東館9階)

講師: 黒田弘行さん(清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会)

資料代: 500円 主催・問い合わせ: 川辺川を守る県民の会・土森 080-3999-9928